

冬季特別展覧会

「笠鉾大解剖 2 これぞ町印！本町本蝶燕」



▲公開初日、博物館学芸員の解説に耳を傾ける開会式の関係者

2月3日、冬季特別展覧会「笠鉾大解剖2 これぞ町印！本町本蝶燕」の開会式が博物館で開催されました。

今回は、「八代妙見祭の神幸行事」のユネスコ無形文化遺産登録を記念して、笠鉾本蝶燕にスポットを当てた展覧会となっています。

9基ある笠鉾の中で唯一、本町の笠鉾だけは城下の中心町であるという誇りを強く持ち、町の名前を記した「町印」にこだわった笠鉾で「町」を「蝶」にかけ、全体を蝶のモチーフで統一した洗練されたデザインの笠鉾となっています。本展では、内部構造のヒミツと蝶をモチーフとした鮮やかな装飾、これまで受け継いできた町の人々の思いを紹介しています。

この展覧会は3月20日まで行われます。

「やつしろ物流拠点構想」

早期策定に対する県への要望



▲蒲島郁夫県知事（右）に要望書を手渡した中村博生市長（左）

1月25日、中村博生市長が県庁を訪れ、「やつしろ物流拠点構想」の早期策定を願う要望書を蒲島郁夫知事に手渡しました。

同構想は、昨年の12月県議会で議決された「熊本復旧・復興4カ年戦略」において具体化に向けた検討を進めると記載されているものであり、交通結節点としての機能が高まる八代地域のポテンシャルを最大限に活かし、南九州の物流拠点化に向け、期待が高まるものとなっています。

中村市長は「本市では物流機能の強化による地域振興が期待されている。本市もできる限りの協力を行うので、震災復興の一助のためにも早期策定をお願いしたい」と述べました。

火災から重要文化財を守る

文化財防火デー



▲笠鉾の部材に見立てた段ボール箱を搬出する地元住民

文化財防火デーの1月26日、ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭の出し物の一つである「笠鉾 迦陵頻伽」の収蔵庫で防火訓練が行われました。

訓練には、地元住民や消防団、消防署など約40人が参加。収蔵庫横の公園で出火したとの想定で始まり、住民の手によって笠鉾の部材の収納箱に見立てた段ボール箱を搬出した後、消防署と消防団による放水訓練も行われました。

また、119番通報訓練や消火器の取り扱い訓練も行われ、参加者は通報の要領と消火器の操作ポイントを確認しました。

迦陵頻伽保存会の小林信介会長は、「ユネスコにも登録されたので、ますます火災や災害に気を配り、文化財として保存していかなければならない」と話しました。

八代のまちは雛祭り一色

第15回城下町「やつしろ」のお雛祭り



▲元気いっぱい演奏する夕葉保育園の園児たち

2月11日、第15回城下町「やつしろ」のお雛祭りのオープニングセレモニーが本町2丁目イベント広場で開催されました。

百合学園高等学校吹奏部や第一中学校吹奏楽部の演奏、夕葉保育園園児の太鼓演奏などがあり、多くの親子連れで賑わいました。

3月5日までのお雛祭り期間中、本町・通町商店街のひな人形の展示や雛小物の販売などはじめ、松浜軒では江戸時代から伝わる雛人形の展示や市立博物館では旧八代城主松井家に伝承した華麗なる婚礼道具の展示などたくさんイベントが開催されます。

また、同期間中、日奈久温泉街では第8回ひなく雛祭りも開催されています。

環境問題やごみ問題、食育に取り組む もったいなか講演会・シンポジウム



▲吉田俊道さんの講演会

1月22日、やつしろハーモニーホールでもったいなか講演会・シンポジウムが開催され、約60人が参加しました。

これは、環境問題やごみ問題、食育に取り組んでいる人々の実働を知ることでもったいなか精神がゴミの減量やリサイクルなど、資源循環型活動に繋がるということを理解してもらいたいと、「次世代のためにがんばる会」が主催したものです。

「大地といのちの会」の吉田俊道さんを講師に招き、生ごみなどを使って菌だらけの土を作り、病害虫が来ない元気いっぱい野菜を作る講演がありました。

食への関心が高まりました 食育体験スクールが閉校



▲計量もおいしく作るための重要な工程

1月15日、第4回食育体験スクールが鏡町の市農事研修センターで開催され、5組の親子12人が参加しました。

これは、農作物を栽培から調理まで実際に体験することによって、食べるものや農業について日頃から興味を持ってもらいたいと、年4回、本市が実施しています。

今回は、市民農園でミニ大根の収穫をした後、家庭でできる味噌作りとレンコンハンバーグ・温野菜・おにぎりなどの調理実習がありました。

参加者は日頃から食べるものに改めて関心を持っていました。

ごみ一つない美しい球磨川にしよう くま川ごみゼロポスターコンクール表彰式



▲今回、出席した入賞者全員と記念撮影

「次世代のためにがんばる会」と「国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所」の共催で、第2回くま川ごみゼロポスターコンクールの表彰式が1月15日、やつしろハーモニーホールで開催されました。

これは、球磨川流域で、心ない人によるごみのポイ捨てや悪質な不法投棄が後を絶たない状況のなかで、ごみをなくし美しい球磨川を取りもどそうと、流域の小・中学校や高等学校の児童や生徒を対象にポスターを募集。

184点の応募があり、審査員による厳正な審査の結果、3部門16作品が入賞しました。

市長と一緒に給食って楽しいな 生徒と市長の給食会食



▲市長と一緒に給食を食べる児童

1月24日から30日までの全国学校給食週間に合わせて、1月24日、中村博生市長ら関係者が龍峯小学校を訪れ、同校1年1組の児童と一緒に給食を食べました。

これは、給食を皆で一緒に楽しく「食べる」体験を通して、心の触れ合いの場をつくり、好ましい人間関係を育てることを目的に、毎年、市の教育委員会が実施しています。

児童らは初めて会う市長に照れながらも、会話をしながら給食を食べました。また、市長から「給食は残さず食べようね」などの言葉かけられ、児童は残さずたいらげていました。

永年の功績を称えて 厚生労働大臣表彰伝達式



▲表彰状を手にする太田家秀代さん（左）

1月23日、市役所鏡支所で「平成28年度ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰伝達式」が行われ、中村博生市長が太田家秀代さんに表彰状を授与しました。

太田家さんは市内の手話サークルに所属し、30年以上にわたり、聴覚障がい者のコミュニケーション支援のために積極的に活動を続けています。

手話通訳士の資格を取得し、聴覚障がい者の病院受診の付き添いや各種手続きの生活相談にも対応。手話の普及や啓発にも熱心であることなどの功績が認められました。

明るい選挙啓発ポスターコンクール 岩本唯香さんが特別賞



▲特別賞を受賞した作品

「平成28年度明るい選挙啓発ポスターコンクール」の全国審査で特別賞を受賞した太田郷小6年の岩本唯香さんが、1月23日、市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に受賞の報告をしました。

同コンクールは、明るく正しい選挙の実現を呼びかける印象的なポスターを、将来の有権者となる児童・生徒に描いてもらい、選挙や政治に対する意識の向上を目的に行っています。

岩本さんの作品は、大勢の人々が投票に行く様子を描いており、一人の一票はとても意味のある一票で、大きなことが実現するという思いで描かれています。



100歳おめでとうございます



早川 茂雄さん
(鏡町)

大正6年2月7日生

鏡町で生まれ育ち、1人の愛娘を大事に育てた茂雄さん。戦争が始まってからは、海軍の佐世保工場でエンジン関係の仕事に携わっていました。奥さんの手料理が大好きで、好き嫌いなく残さずたいらげていたそうです。長寿の秘訣は「おいしいものをたくさん食べる」と。



田淵 ヨシエさん
(高下西町)

大正6年2月1日生

大分県の緒方町に2人姉妹の次女として生まれ育ったヨシエさん。24歳頃に結婚し、4人の子宝に恵まれました。夫が植柳町で開業医として働いていたため、本人も事務員として病院に勤め、夫をサポートしていました。長寿の秘訣は、「よくよやくよせず、よく食べる」と。



山中 ミヨシさん
(高島町)

大正6年2月1日生

ブラジルのサンパウロで生まれ、11歳のときに家族とともに日本に移り住んだミヨシさん。戦時中は、夫とともに満州に渡り、帰国後は編物教室を開きながら生計を立てていました。長寿の秘訣は「好き嫌いなく何でも食べる」と。



木下 タモさん
(坂本町)

大正6年2月10日生

坂本町で3人きょうだいの次女として生まれ育ったタモさん。33歳で結婚し、子どもを2人授かりました。趣味は編み物で、よく子どもたちにマフラーを編んであげていたそうです。長寿の秘訣は「ご飯を残さずしっかり食べていたから」。



筑森 ミサ子さん
(妙見町)

大正6年2月10日生

大島町に3人きょうだいの次女として生まれたミサ子さん。ご主人が若くして亡くなったため、得意の料理を生かして給食センターで働き、多忙な毎日を送っていたそうです。長寿の秘訣は「若い頃によく動いて、よく食べていたから」。



角島 ハツメさん
(上日置町)

大正6年2月10日生

福正町に8人きょうだいの長女として生まれ育った、ハツメさん。習字や編み物、ゲートボール、大正琴など、多趣味なハツメさんは、85歳頃まできょうだいにセーターやカーディガンを編んでプレゼントしていた優しい性格です。長寿の秘訣は、「規則正しい生活を送ること」。

自分たちの命は自分たちで守る 坂本校区住民参加型防災訓練



▲地震車で震度5を体験する参加者

2月5日、坂本校区住民参加型防災訓練が坂本公民館周辺で実施され、地域住民ら約150人が訓練に参加しました。これは、地域全体で災害に立ち向かう地域防災力を高め、住民の防災意識の高揚と、住民相互が共に支え合う関係をつくることを目的としています。訓練は、震度6強の地震が発生したことを想定。避難訓練に始まり、地震車による地震体験や水消火器による初期消火訓練、救命救急訓練などが行われ、参加者は消防職員の指導のもと、それぞれの訓練に取り組みました。

ひと味違う絵本の読み聞かせ アナウンサーとの交流



▲アナウンサーの読み聞かせに聞き入る児童

2月7日、テレビ番組でお馴染みの、本橋馨アナウンサーと山本紗英子アナウンサーによる絵本の読み聞かせが高田小学校で行われ、話し方のプロによるひと味違う読み聞かせを楽しみました。これは、児童が本に親しみをもち、本の内容から豊かな感受性を育むことと、テレビで見るアナウンサーと交流することで、話し方や職業についての憧れを持ち、自分の夢へと広げることが目的としています。1年2組では、「ちからたろう」や「おおきなかぶ」などの読み聞かせがあり、児童はアナウンサーの表現力豊かな話し方に聞き入っていました。